

市 政 会 行 政 視 察 調 査 報 告

平成 30 年 2 月 18 日

知立市議会議員 水野 浩

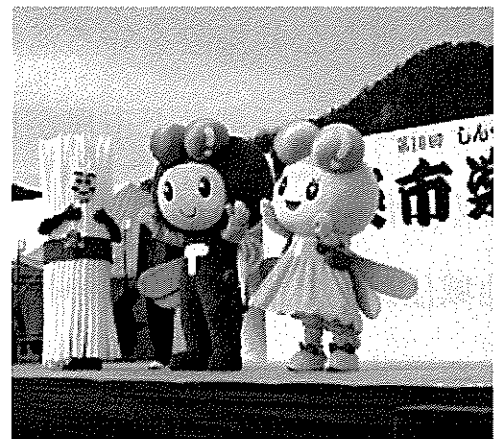
平成 30 年 2 月 7 日 (水) ~ 8 日 (木)

兵庫県たつの市・岡山県津山市

◆◆◆兵庫県たつの市「自立のまちづくり事業」◆◆◆

第 1 日目 平成 30 年 2 月 7 日 (水) たつの市 ゆるキャラ 赤とんぼくん

市制施行	平成 17 年 10 月 1 日
面積	210.87 平方キロ
人口	77,457 人
世帯数	30,410 世帯
数値は	2018 年 2 月 1 日 現在



(1) 自立のまちづくりとは

市民が自ら考え、行動し、連帯、協力して地域の課題に取り組む

(2) 自立のまちづくり事業について

・事業開始の経緯について

この事業は、市民の自主的な公益活動に対する支援を行うことにより、市民が自ら考え自ら行動する自立のまちづくりを推進することを目的とすることから事業が開始した。

・対象活動 9メニュー

対象活動名	対象活動	担当課
公共施設の補修等活動	下記公共施設の補修、改修 ・ 生活道路、農道、都市公園、用排水路など	まち未来創造課もしくは各総合支所地域振興課
公共施設の美化等活動	下記公共施設の草刈、泥上、植樹管理	まち未来創造課もしくは

	<ul style="list-style-type: none"> 市道、運動公園、雨水幹線水路など 	各総合支所地域振興課
空き家対策事業	老朽化した空き家の危険回避のための応急処置	まち未来創造課もしくは各総合支所地域振興課
地域のまちづくり振興活動	地域産業の振興 教育、文化、体育等の振興 市の施策の普及	まち未来創造課もしくは各総合支所地域振興課
女性コミュニティ活動	女性の視点での文化、教育の振興 女性の社会参画に関する事業	まち未来創造課もしくは各総合支所地域振興課
里山整備活動	集落近くの里山整備 山地の環境保全	農林水産課もしくは各総合支所地域振興課
農業施設の災害復旧活動	下記農業施設の災害復旧 <ul style="list-style-type: none"> 用排水路、ため池、頭首工、農道など 	農地整備課もしくは各総合支所地域振興課

・事業の目的

地域の身近な公共施設を守る活動、地域の活性化を図る活動、空き家対策・里山整備・災害復旧活動など市民が自主的に行う「まちづくり活動」を支援するため

・事業の特色

地域住民が自主的に地域の課題を解決するための活動に対して、9つのメニューを活動内容に応じて、年間10万円から30万円の補助金額を設けている。

平成23年度の事業開始以来、住民ニーズにあったメニューを加えながら事業を実施している。補助対象期間終了後も引き続き自立した活動を展開する事例も多々あり、住民全体に「自立したまちづくり」の意識が浸透しつつあることも特色である。

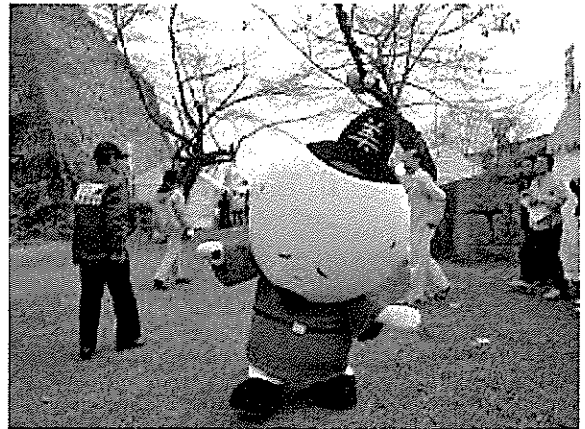
・課題 住民ニーズに対応した制度の改正やメニューの見直しを随時図っていくことが必要である。

・所感 知立市よりも財政力の厳しい自治体の多くが取り入れる施策であり、自分たちのまちを行政とともに「まちづくり」を行うという施策である。一時的には、住民には満足感はあるが、道路整備などは、素人の作業で安全性を担保出来るか、甚だ疑問である。当市には、適さない事業。

◆◆◆岡山県津山市「鉄道近代化遺産を用いての観光振興策」◆◆◆

第2日目 平成30年2月8日 (木) 津山市 ゆるキャラ たかみくん

市制施行	1929年2月11日
面積	210.87平方キロ
人口	102,318人
世帯数	44,972世帯
数値は	2017年7月1日 現在



視察について

「鉄道近代化遺産を用いての観光振興策」については、前市長の肝いりの事業である。私どもが、津山市に視察に伺った日は、市長選挙の真っ只中であった。事業の担当の市職員に、この事業は、選挙の結果に関わらず、継続されるのか、尋ねたところ、白紙であるということをご告知されました。選挙結果は、新市長誕生となり、新市長の政策方針には、この事業はうたっていないと聞きました。つまり、事業の縮小、見直し、廃止となるということでした。視察先を決める際には、十分に視察先の事情も事前に調査すべきということを感じました。鉄道近代化遺産を用いての観光振興策について、会派の担当者からも十分な説明もなく、また、視察先の議会事務局にも多大なご迷惑をかけた視察でした。

(1) 津山市観光戦略アクションプラン策定の背景・目的

津山市では、平成17年2月の市町村合併後に新・津山市観光ビジョン（平成18年3月策定）を策定し、観光客誘致100万人を目指して、様々な観光振興施策に取り組んできました。近年、人口減少・少子高齢化が進展する中、観光は、交流人口の拡大や地域経済の活性化等の波及効果をもたらすものとして期待されおり、国においても、成長戦略の柱の一つとされるなど、極めて重要な分野として位置付けられています。加えて、情報化社会の進展、ライフスタイルの多様化、訪日外国人観

光客の増加など、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。津山市では、平成26年2月に、市の今後の経済成長を実現するための指針となる津山市成長戦略を策定し、観光分野を、成長のエンジンとなる分野の一つに位置付けています。また、平成25年8月の城東地区の重要伝統的建造物群保存地区選定、同年9月の津山市議会による観光立市宣言の決議、晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーンの平成28年度開催決定など、今後の観光振興施策の推進に対する重要性がさらに高まってきています。津山市観光戦略アクションプランは、こうした津山市の観光を取り巻く環境の変化に対応するため、新・津山市観光ビジョンを基軸とし、津山市成長戦略との整合性を図りつつ、今後5年間の観光振興施策を具体的に進めていく行動計画として策定するものである。

(2) 津山市の観光の動向

津山市観光の現状

津山市観光の中心である津山城（鶴山公園）の来場者数は、平成25年では美作国建国1300年記念事業や2013近畿・中国・四国B-1グランプリ in 津山の開催もあり、前年を上回る観光客が訪れています。ここ数年は、四季を通じて新たな客層の獲得を図るため、紅葉のPRやグルメイベント等を実施した結果、少しずつ観光客が増えてきています。しかし、最も多くの観光客が訪れるさくらまつり開催期間の4月の来場者数は、平成24年と比べ減少しています。津山市内の主な観光地の来場者は、津山城（鶴山公園）を中心とした旧津山市内がその大多数を占め、加茂地域、阿波地域、勝北地域、久米地域の観光地は年間およそ4,000人から35,000人の来場にとどまっています。また、その推移は、横ばいまたは減少となっており、施設や周辺の自然景観のアピール不足が考えられる。近年では、全国的に知られるようになった、ご当地グルメの津山ホルモンうどんを目当てに、県内外から多くの観光客が訪れています。この来訪が津山市観光に大きな影響を与えており、市内各

地やタクシーの車内に、のぼり旗やマップが掲示され、津山市を代表する看板メニューとして、市民が自信を持って食文化を紹介する体制が整っている。

(3) 観光ニーズ調査結果

- ① 調査概要 津山市観光に対するニーズの把握と観光コンテンツへの興味関心
- ② 調査対象 10代～80代の首都圏・関西圏在住者（600人）にWEBにて実施
- ③ 調査内容 津山市の認知度、津山市観光に求めるもの、観光資源の可能性等
- ④ 調査期間 平成26年10月1日～平成26年10月10日

<調査からの考察>

- ・津山市への訪問経験率は17.3%、訪問意向は35.3%で現在の入込の2倍の観光需要が見込める。
- ・津山城（鶴山公園）、城東地区、肉文化への興味が高い。
- ・来訪者が訪問・経験したものは津山城、津山ホルモンうどん。
- ・食べてみたいものはホルモンうどん、津山ロール、干し肉など津山らしいものが人気。
- ・観光客は情報の不足（宣伝、書籍への掲載等）を一番に挙げている。
- ・興味あるプログラムは城下町（49.7%）、食文化（36.5%）。

(4) 津山市観光の課題整理

津山市が観光振興を通じて交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るためには、下記の課題の解決に向けた施策を検討する必要がある。

【 資源に関する課題 】

「観光資源の魅力向上」が必要

津山市を訪れる観光客の多くが、津山城や城東地区に僅かな時間滞在し、市外の目的地に向かう現状にあります。城や町並み、自然環境等、市内にはそれぞれ観光名所となる資源を有しながら、その魅力が「点」とどまり対外的な認知に至って

ません。観光客が津山へ行ってみたいと思わせる「津山の楽しみ方」の種類を増やし、より多くの視点から関心を引きつける必要があります。これらの観光資源のネットワーク化による広い市内の回遊促進、季節ごとの来訪動機づくりなどが課題となる。

【 認知度に関する課題 】

「効果的な情報発信」が必要

紙媒体やホームページでの一般的な手法による観光の情報発信だけでは、津山の食文化や点在する多くの観光資源の価値が知られていない現状にあります。外国人観光客を含め、観光客が情報端末を携帯する時代に即応した、観光資源の魅力を戦略的に発信することが課題となる。

【 地域に関する課題 】

「受入体制の充実」が必要

観光は、旅行業、宿泊業など限られた分野の人だけが関わるものと考えられがちですが、観光地での地元の人との交流は観光客の印象に強く残ります。「津山市に来てよかった」と思っていたくためにも、市民一人ひとりが「おもてなしの心」を持つことが必要です。観光客の満足度を高め、再訪につなげるためには、観光客に心から満足してもらえる受入側の体制整備が課題となる。

所感 当市には、「鉄道近代化遺産を用いての観光振興策」は、まったく参考にならない。知立市は、鉄道を用いて観光というまちではない。唯一、津山駅の駅前広場の整備については、シンプルで安価なものだとして説明を頂きました。